

# はえぬきど真ん中

## 「謝らない謝罪」はやめよう!

**最** 近、「謝罪会見」をニュースで見る機会が多くなった。北海道・知床観光船沈没事故、園児を送迎バスに置き去り死亡させた事故、保育園児虐待、東京都議無免許運転など……、枚挙にいとまがない。

「謝る」は、「誤る」から派生した言葉で、誤りを認めて許しを請うところから、「詫びる」「謝罪する」という意味が生じたもの。つまり、そこには被害を受けた人に対して、自分の非を認め謝る気持ちがなくてはならないはずなのだが、近頃の謝罪会見は謝罪とは程遠い、英語の“non-apology”「謝らない謝罪」に感じるの私だけだろうか。

コロナ禍、会食は少人数にと政府が呼びかける中、菅首相(当時)が自民党議員8名ほどと会食。それを問題にされた際、「国民に誤解を招く意味において、真摯に反省している」と釈明したが、「国民に誤解されたことは反省する」というのはそもそもおかしいし、勝手に誤解したあなたたちが悪く、私は間違っ



ていないと居直っているようにも聞こえる。素直に会食をしたことを謝ればよいのに、この手の謝らない謝罪が後を絶たない。

こんな大人の姿を見せられた子どもたちの目には、どのように映るのだろうか。こんな大人になりたくないというならまだしも、大人なんて信用できない、世の中はこんなもんさ、正直者がバカを見る……、そう思われたらぞっとする。

謝らない謝罪は、責任を放棄し、信頼を失う。ただ頭を下げ、謝罪的な言葉を口にする人には、謝罪される側もテレビの向こう側の視聴者も、誰一人納得する者はいないだろう。

文：山橋由貴子 [やまはしゆきこ] (公社)「小さな親切」運動本部専務理事兼事務局長 イラスト：安彦麻理絵 [あびこまりえ]

## 「心のワクチン」運動

### 親切の形が変わっても

～静岡県・藤枝市立稲葉小学校における授業より～

「心のワクチン」運動の一環として行っている、小学校での道徳モデル授業ですが、今回は1年生を対象に実施しました。物心がついたときには、すでに「コロナ禍」が始まりつつあった世代での初めての授業です。

\*\*\*

教材の作文には、新型コロナの流行がまだ初期の頃に、落とし物を拾ってくれた中学生にお礼も言わず、そっけない態度をとる大人が登場します。コロナ前を知っている私がもしそのような接し方をされたら、少し嫌な気持ちになってしまいそうですが、コロナが日常となった今の子どもたちからは、「赤ちゃんの触るものだから仕方ない」「声をかけてあげればよ

かった」と相手の気持ちをおもいやる声が多くあがりました。「拾って渡してあげる」のではない新しい親切の形を柔軟に身につけているようにも感じます。

親切にしたのに嫌な気持ちになったことがあるかと聞いてみても、逆に「優しくされてうれしかったこと」をたくさん教えてくれた子どもたち。素直に親切心を受け取れる、真っ直ぐな心を持っているのだなと思わず笑顔になりました。

\*\*\*

コロナ禍で親切の形も変化しつつあることを実感するとともに、この先も、時代に合わせて新しい形の親切が生まれてくるかもしれないと考えさせられた授業となりました。